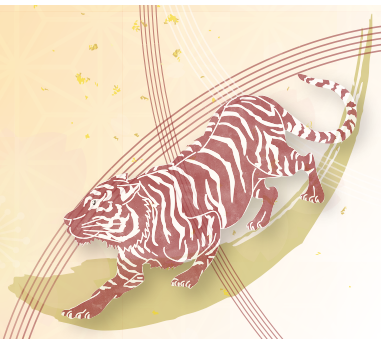
新年のご挨拶

徳島県知事（全国知事会会長）
飯　泉　嘉　門



明けましておめでとうございます。

公益社団法人徳島県宅地建物取引業協会の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、日頃より、不動産業界の発展に多大なご尽力をいただくとともに、本県の住宅・建築行政はもとより、県政各般にわたり格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症との闘いが２年に及ぶ中、昨年は、全国的にワクチン接種が進むとともに、「ワクチン検査パッケージに関する技術実証」が進められるなど、日常生活回復への兆しが見え始めました。私も、全国知事会会長として、「地方の総意」を国に届け、小学校６年までの少人数学級実現に向けた「義務教育標準法」40年振りの改正や「防災・減災、国土強靱化５か年加速化対策15兆円」の創設など、国難打破に向け、国と心を一つに対策を進めて参りました。

一方、県内では、「感染拡大の防止」と「社会経済活動の維持」との両立に全力を傾注して参りました。「感染拡大の防止」では、「とくしまアラート」による注意喚起や帰省者等へのPCR検査受検支援を行うとともに、医療従事者はじめ関係者のご尽力のもと、国の目標を上回るペースでワクチン接種を進めることができました。また、「社会経済活動の維持」では、国の持続化給付金のモデルとなった融資連動型「新型コロナ対応！企業応援給付金」、新しい生活様式の実装を支援する「WITHコロナ『新生活様式』導入応援助成金」、累次にわたる「とくしま応援割」や各種プレミアム券の発行など、事業者の皆様の「業と雇用」を守って参りました。

そして、世界的に加速する、まず、DX（デジタル・トランスフォーメーション）では、全国に先駆け構築した「ローカル５G環境」を県立病院や公設試験研究機関など県内11箇所に拡大し、医療、ものづくり、農林水産業はじめ様々な分野の課題解決に挑戦するなど、誰一人取り残さない「デジタル社会」の実現に、また、GX（グリーン・トランスフォーメーション）では、「水素立県・元年」の幕開けを飾った中四国初「燃料電池バス」の路線運行など、2050年カーボンニュートラルによる「グリーン社会」の実現に取り組んで参りました。

さらには、豊富な実物資料はじめAR・VRを駆使し、「文化の森総合公園30周年」のフィナーレとして「徳島まるづかみ」をテーマとした「新生・県立博物館」のグランドオープン、「あすたむらんど20周年」を記念する都道府県立初・全国最大規模となる「徳島木のおもちゃ美術館」の完成、世界初、道路と線路を走行できる「DMVの営業運行」開始など、明るいニュースが続きました。

空き家対策においても、コロナ禍を機に、「テレワーク」や本県発祥の「サテライトオフィス」、休暇と仕事を組み合わせた「ワーケーション」など、新しい働き方が飛躍的に進展する中、地域に眠る空き家が、民泊や観光施設、移住者の住まいとして一層利活用されるよう、耐震化や最先端のIoT住宅設備によるスマート化など、その価値を高める取組みを支援してきたところです。

さて、今年の干支は、「壬寅（みずのえ･とら）」。「壬」は「妊・任」に通じ、万物が生まれることから「育む責任を持つこと」を表し、「寅」は「演」に通じ、進展を意味する一方、「必ずしも順調には進まないこと」を暗示します。そこで、「壬寅」は、「あらゆる分野で新たな展開を迎えるものの、必ずしも順調とはいえず、各自が一層責任を持って任務に当たることが不可欠となる年」とされます。

今年は、約140年ぶりに「成年年齢」が改正、18歳へと引き下げられます。県内では、徳島南部自動車道「徳島JCT・徳島沖洲IC間」の開通や、３年ぶりとなる「とくしまマラソン」、本県で「総合開会式」が実施される「躍動の青い力・四国総体2022」の開催が予定されています。コロナ禍で高まった「地方回帰」の機運を徳島への人の流れに繋げられるよう、「アフターコロナ新時代」の幕開けに積極果敢に挑戦して参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、貴協会のさらなるご発展と、会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。